

JNTO 広州事務所

中山 友景 所長

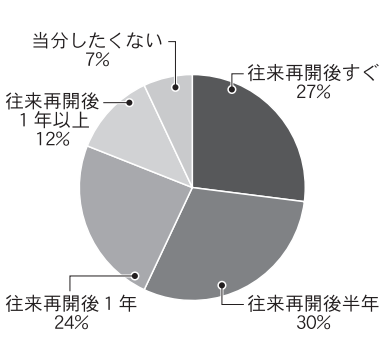
67

9月11〜13日、広東省広州市で華南地域最大規模の旅行博「広東国際旅遊産業博覧会(CITIE)」が開催された。今年は特に国内旅行の展示が中心だが、国際展示エリアも面積こそ例年の約4分の1と縮小したものの約40の国・地域が出展し、ヒジットジャパンブースも3日間で2万8千人の集客を得、改めて海外旅行(香港、マカオなどを含む出境旅行)への期待の高さを感じた。

中国の一般消費者は海外旅行および訪日旅行についてどのような意向

中国人の海外旅行意向

【図】いつ海外旅行をしたいか？



行きたいと答えており、往來再開後のポテンシャルは比較的高いと言える。早そうだ。

再開後「半年以内」に、衛生面重視

次に、「旅行先を決める際に重視することとは何か」という質問では、「旅行先の防疫対策」という回答(1270件)が最も多く、次いで「魅力的なコンテンツ」(1164件)となった。この二つはいずれも千件を超過し、3位「費用の安さ」(112件)以下と比べて圧倒的に多い。これが意味するところは、まず一つには当然のことながら防疫対策(衛生)の重要性が高まっているということだろう。実際に中国の国内旅行を見ても、衛生面を気にする消費者が増え、「高級民宿(スモールラグジュアリー系)の滞在型ホテル」をはじめ、より信頼感のあるミドル〜ハイクラスの宿泊施設が人気となっている。

もう一つは、実際に何が体験できるのかということが今後より重点が置かれることになるということである。ウィズコロナでは旅行のリスクは高まるが、それでも行きたいと思わせるようなより強い動機付けが必要になってくる。それには、漠然としたイメージだけではなく、何が体験できるのかをより具体的に伝え、想起してもらう必要がある。伝わりやすい映像などのデジタルコンテンツをこの機会に充実させ、より積極的に発信していくのも一案だ。

最後に、アンケートで終息後に行きたい国・地域(三つまで選択)を尋ねたところ、日本(2684件)が2位(タイ、533件)以下を引き離して圧倒的に人気だった。JNTOの公式アカウント上のアンケートのため、当然と言えば当然だが、他社の研究報告を見ても、訪日旅行の人気は衰えていない。観光往來の再開までは残念ながらも、訪日旅行の意向が、こうした変化を捉え、まずはできることからプロモーションを行っていききたい。(月一回掲載)

まず、「往來再開後いつ海外旅行をしたいか」という質問では、図のような結果となった。半数以上の57%が「半年以内」に再開後、訪日経験ありの回答の方が半年以内と答える率が高い。やはり上海市をはじめ、旅行を見て、衛生面を気にする消費者が増え、「高級民宿(スモールラグジュアリー系)の滞在型ホテル」をはじめ、より信頼感のあるミドル〜ハイクラスの宿泊施設が人気となっている。

次に、「旅行先を決める際に重視することとは何か」という質問では、「旅行先の防疫対策」という回答(1270件)が最も多く、次いで「魅力的なコンテンツ」(1164件)以下と比べて圧倒的に多い。これが意味するところは、まず一つには当然のことながら防疫対策(衛生)の重要性が高まっているということだろう。実際に中国の国内旅行を見ても、衛生面を気にする消費者が増え、「高級民宿(スモールラグジュアリー系)の滞在型ホテル」をはじめ、より信頼感のあるミドル〜ハイクラスの宿泊施設が人気となっている。

もう一つは、実際に何が体験できるのかということが今後より重点が置かれることになるということである。ウィズコロナでは旅行のリスクは高まるが、それでも行きたいと思わせるようなより強い動機付けが必要になってくる。それには、漠然としたイメージだけではなく、何が体験できるのかをより具体的に伝え、想起してもらう必要がある。伝わりやすい映像などのデジタルコンテンツをこの機会に充実させ、より積極的に発信していくのも一案だ。